

休刊 第一第三
定 價 一 月 二 十 五 銭
廣 告 料 登 行 六 十 銭 特 定 登 行 料 別 議
社 行 所 磐 城 新 報 社
社 址 磐 城 市 本 町 一 番 地
電 話 五 六 四 號

謹賀新年

年頭感

驛のサイレンが唸る、お城山の鐘が鳴る、縣社の太鼓が社頭の鈴が。その何れもが今朝は特にハチ切れそうなき底力を以て次ぎ次ぎと鳴り響き其所にいとも賑やかな而も希望に充ち満ちた極めて明るい元旦情調が生れて来る。今や乾坤一轉、瑞光浴く祥氣溢れて更に新らしき活躍に移らんとする吾人の前に多幸なる昭和六年一月一日は来た。

新年は年の變化である。變化は進歩であり進歩は變化である、人は絶ゆる事無き創造の仕事に従ひつゝある、一年を以て進化的無限軌道の一區切りを爲し其起點が元日である以上『改まる』の一語がまた元日の本質であらねばならぬ不遇不満足的生活には『改まる』の一語が何となく錆ひ付いた心の扉を啓く。斯くして人間のあらゆる種類に向つて光明と希望と勇氣と新生を投げかけ乍ら年々歳々春は訪れて来るのである。盆中の梅花數點の春を領し瓶裡の水仙淡黄を吐くの處屠蘇一醉恍として人生の妙趣を思ふ、亦之れ年頭の一樂事である。

一年の尖端。即ち民族的神話的起源をすら有する古くして且つ深き元日は國民一般が最も森嚴莊重な氣分を以て深き反省を行ひ深き考察を拂ひ深き感激を寄する日として過去何千年來元日なるものが最も有効なる役目を演じ来たのである、この意味に於て元日は起原回顧の日であり歴史尊重の日である、家庭的には家祖を、國家的には國祖を回顧し各自精神的故郷に向つて歸去來丐を賦するの日である、最も新らしき感じを以て最も古き觀念に振り向へる日である、之を以て日常見馴れ聞き馴れ行ひ馴れてゐる極めて平々凡々の事物に對して一種特別な神嚴莊重の意味をすら付與する。

時間と空間とを超越して現代と太古と人と神とが渾然として歸一する、少くとも元日一日、幸福と永遠との觀念が力強く人生を支配する、此等の觀念が『不相變』の一語となつて年頭第一の祝福辭となるのである。之を是れ元始に還へる云ふも可なり童心に還る云ふも可なり、思邪無きの一日、正念の一日、詩の一日、神の一日である。いでや精神的淨化運動の日として最も時代に適合せる新元日を實現しようではないか

新春吟

島田忠夫

送りやりし山鳥喰うべ静まり居よ竹内敏雄を思ひつゝ居り

きその年は事多かりし吾が友にせめてつゝがなく神よまもらせ

夕づきて何か明るき山々の雪いたゞきてくるる寒さや

あらたまの年かはる春雪ふりて三河の山は猪か出づらむ

かるた遊びに來よといふ目黒なるかの女も年長けにけり

夜をこめて加留多あそびしわが友の誰れかれはあはれ既にうせにし

廻禮も今年はやみて神經の弱りにことよせこやてぞあむ

水戸公園一首

寒梅のつばみを見れば稚みかもうべわかかわかし少女のとも

ふゆ山

山みちに標の落葉あたたかし犬つれて人ののほりくる見ゆ

ここに於て相模の海の沖こゆる汽船遙かなり煙はきつ

冬日かげみなりけりなれば葉をおとす標のうれ光らせて

機生のみちぬけて來てみる目したし冬陽にさむき竹やぶのあをさ

冬やまに囀る鳥のこゑしばし止みぬとみれば早やかげりゆく

あたゝかに冬陽とどめるくぬぎ生の枯葉さらさら風吹きやます

冬日かげる澤の竹敷に盡さむくこもれる風をわれはみにけり

ふゆ山の日蔭の澤にをりて來て水を飲みにけり腹ひゆるまで

すみとほる冬山蔭の谷しみづ手にすくひのめば朽葉のにはひ

冬山にささるる鳥もやすらはむこの澤の水を飲みてひそけく

澤にひやく鳥のこゑにふと見上げし冬青ぞらは明るすぎるなり

蜜柑畑のみち行く我にま近く起るはなしごるに驚きにけり

わが心鉄の音に離れゆくらしをどめはうたふ蜜柑もさつ

春

和泉幸一郎

木の芽 草の芽 うれしいな

いつか ふくれて をりました

使ひのかへりの 山道に小鳥はちよん ちよん啼いてゐる。

目白は逃げて 籠のなかにしづかな 囀

時雨になるか 山のうへにひろがる 雲よ

枯草むらに かくれて 僕は つめたくなつた。

山彦

遠くで あそぶ 山彦よ

お山の 瀧の あたりかな

僕が 呼んだ 山彦にかさこそ 逃げる 鳥もある。

ね(な)や

ね(な)やは ね(な)やは 髪結うてくれた

花ごぞ 敷いて 髪結ふてくれた

桃割 いゝな ほら 皆のぞいてる

ちらちら 花に つつまれた からだ

椿

婆さま 前へのめんど 氣をつけな

椿の 赤い花 見てんの 居眠り 婆さま 郵便來たよ。

草ん場

原 勝

草ん場に 雑草なかけて ちらは待つてる

おの赤旗は演習だよ

春(はる)の

こゝは草ん場 ちらちらする日向にゐる

石城郡組合銀行

磐城炭礦株式會社
所長 菅原萬治郎
部長 水野虎三郎

入山採炭株式會社
所長 吉田宗雄
副所長 大貫經次

古河好間礦業所
所長 下野十期
係長 湊谷定次郎

小田炭礦株式會社
社長 萩原申八

福島炭礦株式會社
専務取締役 菊地徳太郎

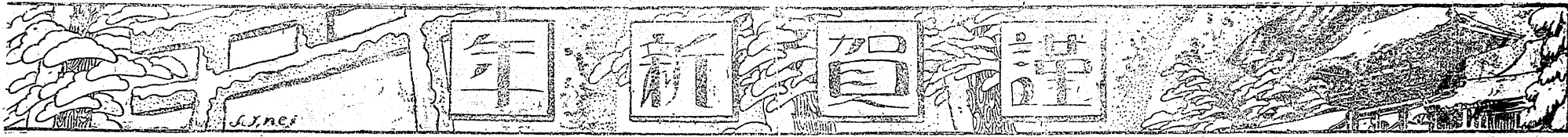
大倉無煙炭礦
所長 尾藤憲祐

大建國労働自力會
會長 川波芳太郎

入立國労働自治會
會長 松 繁

杉山炭礦
礦主 杉山今朝吉

松本徳一
平窪村



修善興新 伏見彦衛

乾坤一轉... 修善興新... 伏見彦衛... 本年は國家的經濟難局に直は...



町民有志五百名 年頭の祝酒を酌む

恒例平町有志の新年名刺交換会は今日午前十一時か...

閑人歌話(五) 島田忠夫

古泉千櫻先生等が「アラ... 閑人歌話... 島田忠夫... 古泉千櫻先生等は「アラ...

六日の出初式 大掛りの火防宣傳

恒例の平消防組出初式は例年四日に舉行したが今年は...



新年祝賀名刺交換會

恒例平町有志の新年名刺交換会は今日午前十一時か...

新小唄 山田新太郎

花の新月日ぐれの手を... 新小唄... 山田新太郎... 花の新月日ぐれの手を...

一月一度のお三夜様に... 月一度のお三夜様に...

名物の湯の音おろし... 名物の湯の音おろし...

廣告 鈴木幸次郎

町會議員 豊田盛次

長谷川儀平 丸二運送店

野木眞郷 海獄寺

花澤賢有 東電 四倉營業所

柳田久太郎 東電 四倉營業所

渡邊忠衛 貨物自動車

四倉町 新妻寅吉

坂本大綱 坂本大綱

町會議員 大和田安太郎

海氣館 豊田美孝

瀨戸物店 波多野榮次

四倉町本町

町會議員 面川龜之助

澤の家 小太郎、春千代

四倉町醫師 齒科醫一同

新妻盛

四倉町長 菊地正一

町會議員 小港平次郎

長谷川儀平

丸二運送店

野木眞郷

海獄寺

花澤賢有

東電 四倉營業所

柳田久太郎

渡邊忠衛

四倉町 新妻寅吉

四倉水難救済會 役員一同

佐藤幸三郎

鈴木茂助

河田鐵工場

三自動車部

關内彦太郎

山田忠太郎

田巻香油店

有聲座

木村外科醫院

猪狩菊三郎

湯本信用無

大森醫院

酒井醫院

金成醫院

衛生牛乳 岡田牛乳舎

吉田美容院

矢吹醫院

鈴木醫院

吉田眼科醫院

大和田眼科醫院

松村病院

星眼科醫院

藤沼醫院

大森醫院

酒井醫院

金成醫院

湯本信用無

大森醫院

酒井醫院

警城建物株式會社 井上貞次郎

草野七五三之助

平町旅館組合

大床石崎幸一

ハシモトヤ糸店

大谷時計病院

色川光以

實川婦人科醫院

ヤマ山崎合名會社

高野卯之吉商店

好問村役場吏員一同

好問村會議員一同

好問尋常高等小學校

職員一同

叶田清

謹 賀 新 年

平看護婦會
會長 清野キヨ子

釜屋商店
諸橋久太郎
諸橋元三郎

安島重三郎

金成通

植田水力電氣株式會社
社長 金成通

鈴木佐市
石城郡内郷村

大河原茂平
石城郡好間村

前田醫院
院長 前田清美

佐藤三平
石城郡内郷村

東部電力株式會社
平營業所

山田勇太郎
平町三丁目

高橋龜松
平町白銀町

四家又一
内郷村高坂

湯本區會議員

後藤利吉 西原末吉 御代富吉 金成嘉吉 高橋五郎 須藤孝雄 若松誠平 佐藤兵衛 渡邊修一

湯本町會議員

若松孝一 比佐賢大 小井六次 村上源造 比佐賢大 石川馬造 大和主馬 石川徳壽 宮本利一 矢野八郎 鬼澤八郎 上川才松 渡邊長作 小野福次 小野福次 矢吹莊三郎 木村徳三郎

關内藥局
平町四丁目
電話四十番

百澤商店
四丁目
電話十二

青柳
平新田町
電話五八二

一の井
磐城平
電話一六七

とさほ
磐城平松ヶ岡公園
電話二二六

高級旅館 松柏館
湯本町

佐藤材木店
平町新川町

矢吹豊
石城郡夏井村

マルト株式会社
駒場四郎
平町田町

日本鑛業株式會社

日立鑛山事務所

株式會社日立製作所

日立工場

鈴木辰三郎

阿部政右衛門

伏見彦衛
平町長

小野晋平

磐城工業株式會社

小野晋平
福尾伊太郎

強口唯七郎
好間關上

大一屋商店
平町三丁目
電話十三番

越の家
磐城平町二の四三
電話三三〇

梅の湯
田町
増子爲治

大蒲焼
松本樓
電話一三三

坂本紙店
一丁目
電話一八

大貞
田町
電話四一三番

榎田榮太郎
材木町
電話二四八

岡山寫眞館
平町南町平館通
電話六一五番

菊廣瀨支店
磐城國平町田町
銘酒正宗發賣元
和洋酒舖問屋
電話五十四番

西村藥舖
平町二丁目
電話三番

飯田近治
平町一丁目
劇場 聚樂館主
電話四七〇

昭和タクシー
平驛前
電話三四三

コンパル
平驛前新道通
洋食 喫茶會
電話六六番

久野ひさこ
平町二丁目
電話二八七番

磐城共濟病院
福島縣平町
院長 難波忠
主管 賀澤忠治

平町西洋料理組合

多田井商店
債券一兩替
公債一金融
質物一取扱
平町大町 電話五九一

春日題一
仙臺製絲所次長

今井省三郎
岩手縣製絲株式會社
高田工場長
盛岡工場長

新村榮
片倉製絲紡績株式會社
兩羽製絲所長

片倉源重
片倉製絲紡績株式會社
蘆種製造所長

片岡貞一
磐城製絲株式會社工場長

江口忠一
堀井工業所

佐々木健一郎
電話三六一番

平消防組
外幹部一同

關内正一
平町二丁目

伊藤淺之助
飯野村

高岡唯一郎
病中年始缺禮

磐城無盡商會
小宅嘉久治
平町大町

中野浩忠
東京市麴町區飯田町

木田剛
石城郡大野村

一月二日午後九時より第三十三回同窓會を開會すこの廣告を以て通知に代ふ

磐城佑賢學舍同窓會

山崎吉平

赤堀信平
東京市外濠野川町西
大原六九二
電話五子 一三六三番

石城郡町村長會

ヤマト醬油株式會社

白井大敷漁場
郡司二郎

千葉彦治

代議士
木村清治

比佐昌平

古川傳一

錦村消防組頭
山崎登